

【東大和市】 胃がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

<国の指針に基づく胃がん検診の実施状況>

対象年齢(40歳以上)	している
検査方法(胃部X線検査)	している

<住民の検診受診状況>

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	24,476	26,039	50,515
【東京都調査による対象者率(市町村部): 57.8%】			
実際の受診者数	179	340	519

<国の指針に基づくもの以外の実施状況>

対象年齢以外の実施	35～39歳
左記以外の検査の実施	していない

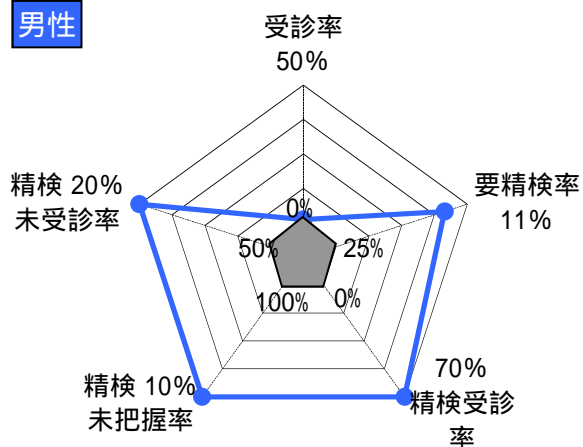
<区市町村の受診率向上(精検含む)体制>

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

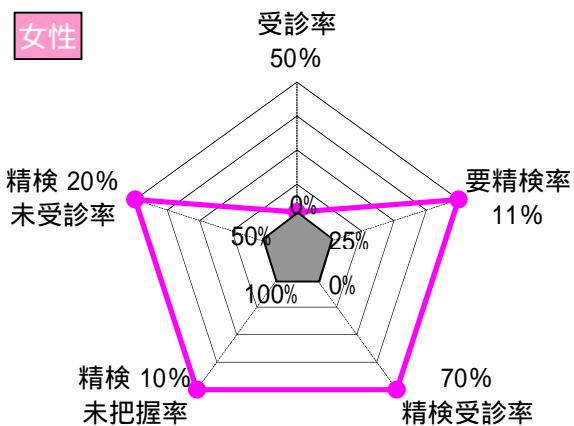
<がん検診の質を評価する指標(プロセス指標)>

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	1.3%	2.3%	1.8%
要精検率	11%以下	13.4%	5.9%	8.5%
精検受診率	70%以上	95.8%	100.0%	97.7%
精検未把握率	10%以下	0.0%	0.0%	0.0%
精検未受診率	20%以下	4.2%	0.0%	2.3%
陽性反応適中度	1.0%以上	4.2%	0.0%	2.3%
がん発見率	0.11%以上	0.56%	0.00%	0.19%

男性



女性



【評価結果】

<受診率>

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

<要精検率>

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

【東大和市】 肺がん検診 プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく肺がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (胸部X線検査及び喀痰細胞診)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	24,476	26,039	50,515
【東京都調査による対象者率 (市町村部) : 64.5%】			
実際の受診者数	312	480	792

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

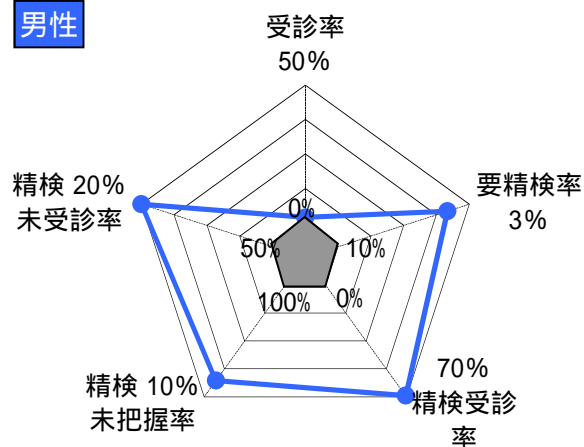
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

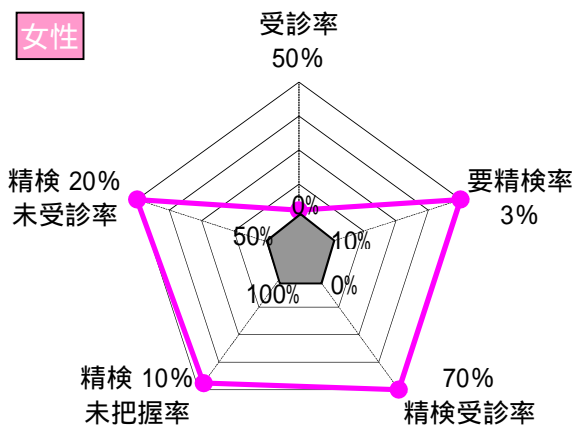
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	2.0%	2.9%	2.4%
要精検率	3%以下	4.2%	2.7%	3.3%
精検受診率	70%以上	69.2%	76.9%	73.1%
精検未把握率	10%以下	23.1%	15.4%	19.2%
精検未受診率	20%以下	7.7%	7.7%	7.7%
陽性反応適中度	1.3%以上	15.4%	0.0%	7.7%
がん発見率	0.03%以上	0.64%	0.00%	0.25%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

< 精検受診率 >

まずは許容値以上となるように、精検受診勧奨を行ってください。

< 精検未把握率 >

精検未把握率が許容値達成まであと一歩です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握を進めましょう。

【東大和市】 大腸がん検診 プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく大腸がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上)	している
検査方法 (便潜血検査(二日法))	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口	24,476	26,039	50,515
【東京都調査による対象者率(市町村部): 62.0%】			
実際の受診者数	757	1,192	1,949

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

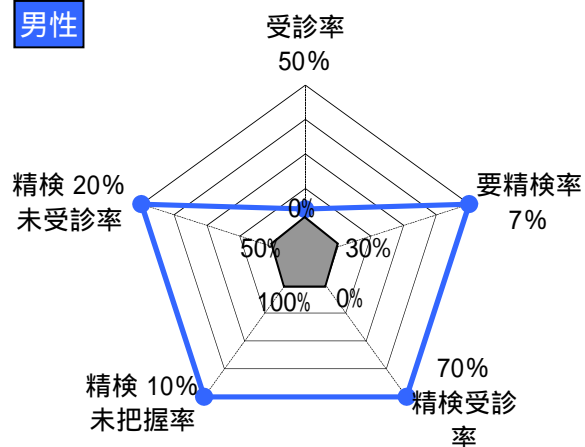
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

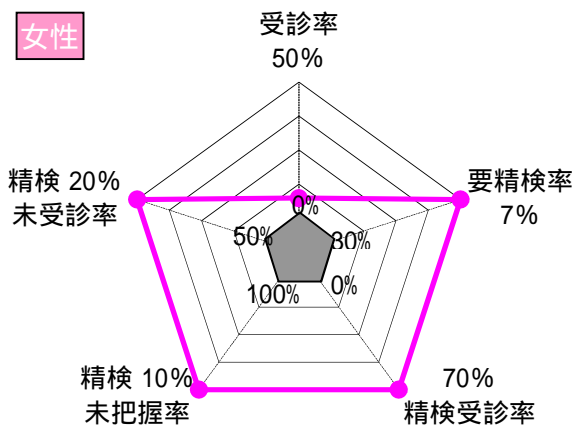
< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%	5.0%	7.4%	6.2%
要精検率	7%以下	5.8%	5.4%	5.5%
精検受診率	70%以上	88.6%	87.5%	88.0%
精検未把握率	10%以下	4.5%	7.8%	6.5%
精検未受診率	20%以下	6.8%	4.7%	5.6%
陽性反応適中度	1.9%以上	2.3%	4.7%	3.7%
がん発見率	0.13%以上	0.13%	0.25%	0.21%

男性



女性



【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

【東大和市】 子宮頸がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく子宮頸がん検診の実施状況 >

対象年齢 (20歳以上:隔年)	している
検査方法 (細胞診)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		35,852	
【東京都調査による対象者率(市町村部): 67.1%】			
実際の受診者数		990	

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

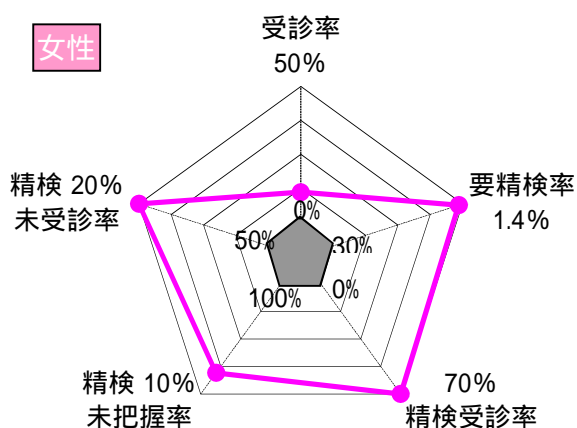
< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		11.1%	
要精検率	1.4%以下		2.2%	
精検受診率	70%以上		72.7%	
精検未把握率	10%以下		27.3%	
精検未受診率	20%以下		0.0%	
陽性反応適中度	4.0%以上		0.0%	
がん発見率	0.05%以上		0.00%	

【評価結果】



< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

< 要精検率 >

要精検率が高くなるほど、「要精検」といわれたが実際にはがんではなかった方(偽陽性)の割合が増える可能性があり、受診者に身体的・経済的・精神的負担をかけるなど、検診の不利益が拡大する恐れがあります。また、受診者特性の変化により要精検率が高くなる場合もあります。

< 精検未把握率 >

高めの精検未把握率です。自治体が行う対策型検診として、事業評価のために『要精検』となった方々のその後の状況把握が必要です。

【東大和市】 乳がん検診 平成26年度プロセス指標等一覧シート

< 国の指針に基づく乳がん検診の実施状況 >

対象年齢 (40歳以上:隔年)	している
検査方法 (視触診及びマンモグラフィ)	している

< 住民の検診受診状況 >

	男性	女性	男女計
該当年齢の人口		26,039	
【東京都調査による対象者率(市町村部): 73.1%】			
実際の受診者数		966	

< 国の指針に基づくもの以外の実施状況 >

対象年齢以外の実施	していない
左記以外の検査の実施	していない

< 区市町村の受診率向上(精検含む)体制 >

対象者の名簿を作成して台帳管理	している
個別に受診勧奨	していない
過去3年間の受診歴を記録	している
精検未受診者への精検受診勧奨	している

< がん検診の質を評価する指標(プロセス指標) >

	あるべき値 (許容値等)	男性	女性	男女計
受診率	目標値50%		13.0%	
要精検率	11%以下		9.6%	
精検受診率	80%以上		92.5%	
精検未把握率	10%以下		4.3%	
精検未受診率	10%以下		3.2%	
陽性反応適中度	2.5%以上		2.2%	
がん発見率	0.23%以上		0.21%	

【評価結果】

< 受診率 >

『効果的ながん検診受診率向上の手引き』等を参考にして、受診率50%を目指す必要があります。

